

石川県内の川柳会と交流を進めます。

7月1日
卯辰山
玉兔ヶ丘にて



「曉」句碑がリニューアル!

皆で選んだ六月の秀句
蚊帳の外へつぴり腰で拉致対話



中野林

← 高得点に中野林さんの句がずらりと並びました。この句、拉致問題でもアメリカ頼みでしか動けない安倍政権の口だけは達者な様子を軽妙に詠んで参加者全員の共感を得ました。

七月例会 7月23日(月)
投稿締切 20日(金)
課題吟「流れ」 2句
自由吟 5句以内
自選句などもよろしく。

◆ 目次	
川柳互選	
課題吟「話」	2
自由吟	3
自選吟	4
宇部先生の特別授業	6
応募案内 鶴彬川柳大会	10
鶴彬の作品を理解するために	
「鶴彬句集(岡田一と)より	12
六月例会報告	16
編集後記	16

「和」川柳社会報 六六九

定例会 二〇一八年六月二五日(月)
定例会 於…金沢市金石町

6月の 川柳互選

◆ 課題吟 「話」

(互選) 一人3句吐

トランプと金の電話に横入り	白真弓	2	いま対話自国の利より八億救助	和子
簡便な電話会談出来ぬ国	広助	2	相手から話聞く耳ないけれど	一角
話しでは進軍ラッパ勇ましい	一角	2	対話ではない圧力だと言い一人ぼっち	徹乗
話しでは我が内閣で解決し	一角	2	格差社会いやな話が吹き荒れる	亀公子
サッカー戦「話す」時機日「加計」奇弁	宏	3	ポカッと蕾が開く米朝の話し合い	大峰
話聞くだけが結構むつかしい	ダン吉	3	意地捨てよ対話なくして平和なし	未知子
三大話日大カケモリ笑えない	未知子	3	大地震安全神話揺れている	徹乗
話すにも尊敬謙遜礼儀あり	立東爺	3	アベ政治 丁寧話し 茶番なり	大峰
署名板はさんで保守と会話する	白真弓	4	米のポチ本心つかめず対話ノ	和子
話そらす総理さみしくないですか	ダン吉	4	官製春闘笑い話にもならんわい	亀公子
全身が耳だ 得がたい友がいる	ダン吉	4	ガマの奥墓なき亡者の話し声	白真弓
議事堂でウミを出します丁寧	立東爺	4	子をあやめ貧困孤独対話なし	和子
口達者曲がると他人を傷つける	立東爺	5	シンゾウの話を含む嘘の皮	林
		5	原発を話題にせよと地震の巢	広助
		6	対話せず辺野古の海へ土砂埋める	林
		6	蚊帳の外へつぷり腰で拉致対話	林

今月の
自選連作

自選句

◆自選句

中野 林

国会で虚偽答弁慣れたもの
悪法は嘘で固めて作り上げ
またしても困った時の記録消し
記録消し「大日本」の得意技
「高プロ」で病ませて命奪い取る
こんこんとウソが湧き出るアベ官邸
困難を生み出すけれどウミ出さず
検察は捜査を操作と読み替える
トランプのポチになるにも金が要る
トランプにやたら飛びつくアベガエル
トランプの背中にすがり北を見る

◆自選句「鬪病」 白眞弓

黒髪を夢見て喰らうわかめ汁
葉抜け禿は脱却小坊主に
もつと喰え板海苔今日も忠告す
日日薬リハ外出の頻度増え
攻め方が足らんと腫瘍胡坐かく
わが来し方捨てた星夜のひとり宴
……………

◆短信

大阪の「劇団きづがわ」さんが12月15日(土)、
16日(日)、リバイティおおさかで『鶴彬 暁をい
いて(仮題)』の舞台をくく。私たちの長い長い夢
でものあったので、さあ…忙しくなるぞ! ご支
援を。(岩佐ダン吉)

◆ 自句自解 & お便り 白真弓

○私の句の説明を少し。

署名板はさんで保守と会話する

これは、毎月15日に市民連合で3000万人署名してありますが、その時の経験です。

人の好いおじさんが、軍隊あつた方がいいと。結構対話して、友好的に別れましたが、最後に「で、署名してください」といったら騙されずに「ダメだよ」と断られました(笑)

ずぶずぶと沈む辺野古の弱地盤

は、辺野古の地質調査蛾大幅遅れた原因が、辺野古の〇一と〇二あたりの海底が、全く機器を入れても沈むほどの軟弱地盤だったということです。

この前も、北の脅威は、刺身のツマで、本命刺身は対中国防衛だと、小西誠さんが話されています。だから南西諸島の軍拡であそこにミサイル

を並べると、中国にとつては脅威になると。

でも三〇発では、すぐに終わっちゃういますけど。単なる脅し? 本当の防衛戦になったら、太平洋戦争ですとも。コワイですね。

.....

和川柳会のみなさま

白真弓です。これまで投句だけの参加でしたが、周立東爺様からのお誘いで、選句に参加させていただきます。

選句は、とても勉強になるので、このような機会を与えてくださって、ありがとうございます。

川柳はまだまだ未熟者ですが(吐いても吐いても上達しない)、今後ともよろしくお願いいたします。

編集室より 《メール選句にご参加を》

メールで句会に参加。新しい試みでした。今回、メール投句されている白真弓さんに、選句投票に参加していただきました。例会に使用し

宇部先生の 鶴彬平和の特別授業

(鶴彬を顕彰する会) 寺内徹乗

高松小学校の授業風景



ている作品一覧を句会前に送り、推薦番号を送り返していただくことで、句会の選考結果に反映できるのですね。考えてみれば至極簡単なことでした。

ぜひ遠方の方でも例会の選考にご参加下さい。連絡いただければ詳しい案内を送らせていただきます。(立東爺)

六月二八日(木)、高松小学校で宇部功さん(岩手県の元校長)の鶴彬の特別授業があり、翌日の朝刊(北陸中日新聞)や夕方の地域のニュース(北陸朝日放送)でも紹介されました。高松小学校の前校長と今の校長の理解もあつて、今年で四回目になりました。

鶴彬は高松の郷土の偉人でありながら、高松では知らない人も多く、高松の小中学校で鶴彬に触られる機会は、ただの一度もありませんでした。高松で生まれ育った私は、偶然にも「枯れ芝よ」の句碑が近所にあつたので、鶴彬の名前くらいは

知っていました。しかし、周りの大人に聞いても鶴彬は何者なのか誰も知りませんでした。鶴彬の生涯についてはじめて知ったのは、今から十年前。神山征二郎監督映画「鶴彬―こころの軌跡」を見たときです。

本来ならば高松の人たちが町ぐるみで、鶴彬の川柳や彼の生きざまから戦争を学び、戦争を反省し、不戦の誓いを立てるべきなのですが、そう簡単にいかない事情もありました。高松では鶴彬の話題は、戦時中から戦後しばらくの間はタブーであり、鶴彬は次第に風化していきました。まずは鶴彬の実家である喜多家への気遣いがあったでしょう。また、苦い過去を思い出させ、戦争の傷に塩を塗るような鶴彬の川柳に反感を持つ人もいました。「枯れ芝よ」の句碑は、鶴彬の友人や同級生により、見立たない場所に密かに立てられました。

呼びかけ人であり国会議員だった故・小川半次をはじめ、建立者の名前は誰一人刻まれていません。顕彰碑というより、慰霊碑だった側面が大きかったでしょう。鶴彬の友人、故・丹羽又平（歯科医・元町長）は、その句碑を使って鶴彬を伝える活動を細々としていたことはありましたが、鶴彬の再評価運動は広がらず、私たち鶴彬の孫の世代は、鶴彬を全くと言っていいほど知らないのです。現に私が高松の同級生に「鶴彬の顕彰活動をしている」と言っても、「鶴彬って何?」「変な宗教か?」と言う人も少なくありませんでした。

十年前、神山監督により鶴彬の映画が出来たとは言え、それを観たかほく市民は人口（約三万人）の一割もいませんでした。神山監督はじめ顕彰会はかほく市に協力を依頼しましたが、市長はそれを固辞しました。それでも映画の口ケは始まりま

したが、鶴彬の映画で盛り上がりつつあったのは高松を中心とした一部の市民だったというのが実情でしょう。作家の田辺聖子さんや澤地久枝さんなどの著名人が鶴彬を紹介したと言っても、そういった本を読む人は一部の層で、広がりには限界があります。

しかし、三年前から始めた宇部先生の特別授業のお陰で、鶴彬を知らないと言う高松の人たちは、めっきり減ったという印象を受けます。今年、私は高松小中学校の同窓会に顔を出しました。そのとき同級生の一人から「鶴彬についてうちの子から教えてもらった」と嬉しい報告を受けました。この授業をやり続けた甲斐がありました。

三年前、岩手県で鶴彬の特別授業をしている宇部先生を、高松小学校（鶴彬の母校）に呼ぼう

と企画したのは、かほく市に住む角島さん（鶴彬を顕彰する会幹事）です。この企画には、石川県文化振興財団は、一回目だけという条件で補助金を出してくれました。そのため、二回目以降は規定により補助金の対象にはならず、顕彰会からの全額出費となりました。宇部先生の住む岩手からの交通費と宿泊費だけでも、七万円はかかります。二回目以降も続けられるかどうか、顕彰会の幹事たちは悩みました。

そこで、二回目以降の資金集めについて、角島さんが「カンパを集めよう。それでも足らなかつたら私が出す」と言いました。まず角島さんは一年前の宇部先生の授業録や講演録、そして子どもたちの感想文をまとめて冊子を作り、これを支援者に配りました。これが高く評価され、あっという間に目標金額を上回る資金（十三万円ほど）



角島広治さん

が集まり、無事に二年目の授業も出来ました。角島さんは余ったお金は全額顕彰会に寄付しました。

宇部先生がボランティアとして来てくれていることも、この企画の継続できる大きな理由です。角島さんは、この鶴彬の特別授業を「種まき」だと考えています。宇部先生も、鶴彬の顕彰活動が高松で根付かないと意味がないと考えています。宇部先生の四回の授業で、かほく市で約五〇〇人の小学生と十数人の先生が聴きました。子どもたちは、両親や祖父母に鶴彬の話をしていると思いますので、市の人口の割の三〇〇〇人ぐらいには広がったと思います。この中から何人でもいいの

で、新しい芽が出て、平和の使者になつてもらいたいです。

角島さんは元新聞記者で、顕彰会随一の博学の人で、顕彰会を牽引してきた一人で、鶴彬資料室のガイドや鶴彬の講演もされてきました。角島さんは鶴彬通信「はばたき」を通して私に、見出しの決め方、編集のやり方、他にもいろんなことを教えてくれた恩人でもあります。しかし残念ながら、今年の1月、角島さんは顕彰会の活動中、階段から転倒し頭を強打し、そのまま入院となり、活動できない状況にあります。ですが、皆さまの支えがあつて、今年も角島さんの念願だった宇部先生の特別授業を成功させることができました。

今年は、毎年恒例の浄専寺（高松）の「生きることを学ぶ会」のほかにも、金沢市内の会場で主に教

員や元教員向けの講演「鶴彬大人の授業」を開催することができました。これは顕彰会の幹事で和川柳社代表の渡辺寛さんが中心になって、ポスター作りから宣伝まで行い、教育関係者や一般の方を合わせて約五十人が集まり大成功となりました。この企画が、親種（元種）の種まきとなり、いずれ石川県発の鶴彬の平和の授業をやる先生が表れ、全国、全国に平和の種をまいてくれることを期待



金沢での授業風景

切り迫る！

第23回「鶴彬」川柳大賞募集

主催…かほく市川柳協会・鶴彬を顕彰する会
後援…かほく市教育委員会・かほく市文化協会・

全日本川柳協会・石川県川柳協会・和川柳社・

北陸中日新聞

- ◆ 作品内容…現代を鋭く風刺した新しい感覚の川柳
- ◆ 応募規定…未発表作品・応募資格不問・一人二句
- ◆ 選者…福村今日志（石川県川柳協会）／伊東志乃（富山県川柳協会）／赤池加久（宝達川柳会）
- ／遠田亀公子（かほく市川柳協会）
- ◆ 応募期間…30年6月10日～7月31日
- ◆ 投句料 1000円（〒定額小為替ご利用を）
- ◆ 大賞 1万円（副賞5千円相当のかほく市特産品）
- ◆ 優秀賞（副賞5千円相当のかほく市特産品）
- ◆ 佳作（副賞3千円相当のかほく市特産品）
- ◆ 入選（記念品）

◆ 発表 9月2日（日） 鶴彬忌川柳大会会場にて
（応募・問い合わせ）かほく市教育委員会

生涯学習課内 第22回鶴彬川柳大賞応募係

します。

宇部先生は、28日と29日で一つの授業と二つの講演をこなしました。29日の午前中は時間がありましたので、宇部先生と城戸さん（鶴彬の姪）と私とで白山比咩神社に行ってきました。ここは、盛岡の神社の役員でもある宇部先生にとつて、一度は行って見たかった場所だったそうです。白山比咩神社には宇部先生の想像を超える樹齢五百年はあろうかと思われる巨木が立ち並び、宇部先生は感動していました。その帰り、私のお勧めの「ふれあい昆虫館」を案内してきました。宇部先生は、たくさん蝶が目と鼻の先で観察でき、満足されたようです。

三年前から毎年、宇部先生と角島さんと私の三人、あるいは城戸さんを加えた四人で、授業のない日に石川県を観光してきました。今年はこのメ

ご参加を！

第32回 鶴彬忌川柳大会

主催・・・かほく市川柳協会

後援・・・石川県川柳協会・かほく市教育委員会・かほく市文化協会・北陸中日新聞・鶴彬を顕彰する会

日時・・・平成三十年九月二日（日）

場所・・・高松産業文化センター・大ホール

開場・・・午前九時三十分（受付開始）

出句・・・午前十一時（時間厳守）

・席題「共通当日発表」 金沢川柳句座 浜木文代選

・席題「共通当日発表」 宝達川柳会 赤地 加久選

・宿題「積」 寺井川柳会 小西涼成選

・宿題「るるるん」 こまつ川柳社 東野やす子選

・宿題「跡」 蟹の目川柳社 岡本聡選

・宿題「気」 福野川柳社 六反日出緒選

※出句数 宿題二句提出 献句一句ご持参ください。

表彰 各題ごと秀句賞一句（かほく市川柳協会賞・北陸中日新聞賞）

最優秀句賞一句（石川県川柳協会賞）

・会費 三千元（昼食・発表誌呈・懇親会費含む）

・投句料 五百円・メ切八月三十一日（金）必着

・投句先 干かほく市高松川柳協会（小山広助方）

問い合わせ：TEL/FAX・076-281-1201・090-4323-1754

鶴彬を生んだ 騒然とした社会状況

鶴彬の作品を理解するために

『鶴彬句集』は一九八七年、岡田一と（和川柳社創立者）さんが、旧高松町で開催された「鶴彬五〇回忌記念川柳大会」が開催されるのを機に



ンバーに角島さんがおらず、残念です。きっと角島さんが一番残念がっていると思います。これから私は、宇部先生の二つの講演の書き起こしや、子どもの感想文の打ち込み作業をし、今後の「はばたき」に掲載する予定です。今まで角島さんに

教えてもらいながら二人三脚でやってきた「はばたき」の編集作業を、今回は私一人でやらなければなりません。角島さんから「寺内さん。あとは頼んだ」というエールを感じます。

出版したのですが、この句集の冒頭、鶴彬を理解するためのアドバイスを書かれていますので抜粋して紹介します。（編集子）

『鶴彬句集』解説

岡田一と

富山の米騒動の波及で騒然

鶴彬作品を理解する上で一つの参考になると思っていますので、彼を生じせしめた当時の石川県の土壌について簡単に述べますと、一九一八年（大正七年）八月のはじめ富山県に起きた米騒動は同月下旬には金沢でも数千の群衆が米屋・大地主・知

加賀の三羽烏：暁烏敏・高
光大船・藤原鉄乗

暁烏敏（白山市北安田）



高光大船（金沢市北間町）

加賀の三羽烏や労働争議

結果を生みました。

一方この当時に真宗教団の改革を唱えて活

事官舎におしかけ、そのために七人が騒擾、強盗
罪で処罰され、石川県高浜でも女一揆が発生し、
能登の宇出津では婦女ばかり約六百名が米屋を襲
う騒動となり、また金沢市郊外の松任町（現松任市）
でも群衆の騒動が起り、穴水では《米屋と町長宅
を焼打ちせよ》の過激文が貼られる等、県下は米
騒動を契機に社会的矛盾を広く県民に認識させる

高光大船の逸話

ある時、若者に「仏法とは何ですか」と問われた大船は「仏法とは鉄砲の反対だ」と答えた。「鉄砲は生きている者を殺すが、仏法は死んでいる者を生かすもの」という。また「棺桶の中に入ったものを生かすのが仏法か」と問うた若者に、「あれは遺体であり、死んでいる者とはいわない」と言い、さらに「お前のような者を死んでいる者というのだ」と言われた。若者はまた「俺は生きてる」と手足を動かすと、「それは動いているだけで、生きているのではない」と言った。

（注②：仏教と戦争責任）

動した、あけがらす はや 暁烏敏、藤原鉄乗、高光大船などの
「愚禿社」ぐとくしゃ が起つていますが、この結社の機関誌
「氾濫」はんらん（大正九・五・一五発行）によりますと、
《友達の四・五人から今度「異邦人社」が結ばれ
た。それは決して秘密結社ではない。只現代生活
の基調に飽き足らぬ人達の集いなのである——》

と見えています。愚禿社に近づいていた当時の青年の中には島田清次郎（島清）や中野重治らもいました。大正九年一月に「愚禿社」がカー・ローザ追悼集会を行い（※注①）参加者が検挙され、十二月には、その機関誌「異邦人」も発行禁止になりましたがそれでも大正十年東京での第二回メーデーに呼応して、このグループは革命歌をうたい街頭デモを行い検挙されるという事件を起しています。この事件で異邦人と関係があったとして当局は小学校教師など男女三名の教師を誅首しています。また大正十四年の尾小屋鉦山ストや大正十五年の小松製作所争議など労働考の階級的意識が高揚し大正八年に出来た金沢の新入会支部の四高生泉隆は「異邦人社」と連携し、大正十二年、四高社会思想研究会が生れて、これらの革新団体は労働争議に積極的応援を行なうなど多数の犠牲者を出しながらも実践活動を特色としていま

す。鶴彬がものごころついた年頃から兵役につくまでの時代は、労働者階級を中心とする人民大衆の自覚と権力への抵抗、一方ではこれらの大衆行動に根こそぎの弾圧をもって対処した支配層との苛烈な闘争の時期でもあったのです。

○ ○

鶴彬が中心人物とされた七連隊赤化事件という反軍事件も歴史の上からみると当時の多くの反軍闘争の一例だったことを知らねばならないと思います。陸軍関係で特筆されるのが第九師団（金沢）と第十二師団（久留米）の反軍事件でしょうが、十二師団で起きた多くの事件が軍隊内での部落差別問題に起因した反軍闘争であったのに対して九師団のそれぞれは思想関係であったことです。

ここで第九師団関係の反軍事件を簡単にならべますと、大正十年二月に起きた新人会員高木某による歩兵七連隊社会主義宣伝事件があり、つづ

いて大正十二年にはアナキストの後藤憲太郎が兵営内でピラを撒き逮捕、大正十四年に獄死、大正十二年には三五連隊と衛戍病院で不穩文書事件が起きており、昭和四年から七年まで毎年、入営日になると市内に反軍ピラが撒かれる事件があり、昭和四年には七連隊大間知篤三が治安維持法で、また三六連隊伊藤重男が出版法で検束処罰されています。また上野町にあつた陸軍射撃場での反軍ピラ撒き事件が鶴彬との伝説もありましたが、これは別の人物です。「昭和七・八年石川県特高警察文書」によると、昭和八年十月の福井陸軍特別大演習の為に、その直前に逮捕、軟禁する為の石川県下の社会主義者リスト二五〇余名の名が記されていますが、七連隊関係では喜多一二（高松）田村清重（越路）浦野芳雄（河北）などと出身地名入りで書き込んでいます。（中身出しは編集人）

編集者注釈

※注① 一九一九年一月、ドイツで社会活動家のローザ・ルクセンブルクとカール・リープクネヒトがファシストに惨殺されたことで、金沢で追悼の集会を「愚禿社」が行ったことを指す。

※注② 暁烏敏や高光大船ら仏教者が作った「愚禿社」ですが、仏教界は日本が戦争に突入する中で、暁烏敏なども積極的に戦争協力へ踏み込んでいったことから、戦後、真宗大谷派は「仏法の名のもとに、多くの青年たちを戦場へと送り出した」責任を表明し、「不戦決議」「憲法『改正』反対決議」「教育基本法『改正』反対決議」を行つています。高松町・浄専寺は「生きることを学ぶ会」を長く続け、その精神を實踐されています。鶴彬の顕彰にも積極的な数少ないお寺さんですね。

◆六月例会などの報告

◆多忙な同人のみなさんに合わせて例会を設定しているのですが、やはり第4月曜日に固定することにしました。

◆会費が決まりました。同人年会費…4000円、投句者年会費…2000円、ご協力お願いします。

◆盛岡の宇部功元校長先生が鶴彬の生地・旧高松町を訪れ、鶴彬の出身小学校で平和の授

和川柳社 7月例会の案内

◆7月23日(月) ◆×切：7月20日(金)

◆課題吟「流れ」2句 ◆自由吟：5句以内吐

◆自選吟、連作、エッセイ、川柳論、「ご意見など

お寄せ下さい。◆会場：金沢市金石（乞ご連絡）

◆句報を持参下さい。例会で話し合います。

●投稿 FAX(076) 254-0762

●メールアドレスは下段に。

郵送は
下段住所へ。

業を行いました。同日夜、金沢のいちば館で「大人の授業」を行っていただきました。貴重な体験に同行された寺内徹乗さんからいきさつや感想を書いてもらいました。金沢の「授業」は和川柳社が世話をしました。

◆七月一日、卯辰山玉兎ヶ丘にある鶴彬の句碑としては全国初となる「暁を抱いて〜」の句碑解説板が新しくなりました。大人や子どもと一緒に解説板の埋設や刻まれた文字の色入りに汗を流しました。表紙に写真を掲載。

◆編集後記

今回の例会から、実際に句の選考にメールによって参加し、結果に反映させることにしました。白真弓さんから賛同いただき、遠方から例会に参加していただきました。ありがとうございます。(立東爺)

和川柳社

連絡先・編集室：金沢市金石東2丁目15-30（渡辺方）

電話：076-254-0762 pc-mail：kananabe@popolo.org

携帯：090-9445-1302 携帯 mail：kan-wata@i.softbank.jp